

第3回 標準委員会 研究炉専門部会
研究炉廃止措置分科会議事録

1. 日時 平成13年2月14日(水) 13:30~16:30
2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室
港区新橋2-3-7 新橋第二中ビル3F
3. 出席者(敬称略)
(出席委員)岡本(副主査)、福村(幹事)、伊東、伊藤、小林、紺谷、谷本、松尾、柳原、山内、吉田(11名)
(代理出席委員)小室(片岡代理)、福谷(小山代理)、村上(白川代理)、
松本(野崎代理)(4名)
(欠席委員)高柳(主査)、中井(2名)
(事務局)太田、市園

4. 配付資料

- RISC3-1 第2回研究炉廃止措置分科会議事録(案)
- RISC3-2 委員名簿(研究炉廃止措置分科会分)
- RISC3-3 DCAの廃止措置計画の概要
- RISC3-4 立教炉使用済燃料の米国への輸送について
- RISC3-5 (米国原子力学会「研究用原子炉の廃止措置標準化報告書」訳文)
 - 1 第3章 -5 第6章
 - 2 第4章 -6 第7章
 - 3 第4章(その2) -7 第8章
 - 4 第5章
- RISC3-6 (IAEA「研究用原子炉廃止措置の安全」訳文)
 - 1 第3章 -4 第8章
 - 2 第4章, 第5章 -5 第8章(その2)
 - 3 第6章, 第7章

参考資料

RISC3-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、17名の委員中4名の代理委員を含め15名の委員の出席があり、決議に必要な委員数(12名以上)を満足している旨の報告があった。

(1) 前回議事録の確認

前回議事録について承認された(RISC2-1)。

(2) サイクル機構DCAの状況

谷本委員より、RISC3-3により、DCA(重水臨界実験装置)廃止措置計画の概要の説明を行った。以下のような審議が行われた。

- 今年度中に運転を終了し、12月頃には規制官庁に解体届けを提出したいと考えている。
- 長尺の配管等はカuttingしてドラム缶に詰めることで考えている。20%の充填率想定はこれまでの実績から評価した。
- 炉心から取り出した燃料は燃料貯蔵庫に移す予定。商業炉の考えでいくと燃料が施設から出されていることが条件なので、この段階ではまだ廃止措置は始まっていないとも言える。
- 安全貯蔵期間について、研究炉の場合、商業炉と異なり長期間の照射を受けているわけではないので、減衰を待つ意味はあまりない。そのため即時解体のシナリオとなっている。

(3) 立教炉の状況

小林委員より、RISC3-4により、立教炉使用済燃料の米国への輸送についての概要の説明を行った。以下のような審議が行われた。

- 廃炉を目的として、燃料全量を米国に搬出することを計画しており、そのための燃料移送容器が既に完成している。立教炉の場合、燃料を搬出することが実質的な廃止措置のスタートであると考えている。
- 燃料を取り出した後の施設については、まだなにも計画がない。
- 燃料の搬出についても、積出し港、そこまでの車両輸送、米国までの海上輸送等コンセンサスを得るという困難な課題があるので工程は流動的である。

(4) 米国原子力学会「研究用原子炉の廃止措置標準化報告書」について
分担した各委員より、RISC3-5-1~5-7により説明を行った。

(5) IAEA「研究用原子炉廃止措置の安全」について

分担した各委員より，R1SC3-6-1～6-5により説明を行った。

(7) 今後の進め方

今後の進め方についての議論を行ない，以下について合意した。

- ・ I A E A方式，米国原子力学会方式それぞれ，一長一短があるが，米国原子力学会方式には米国の特殊事情による考え方が含まれている。一方，I A E A方式は，多くの国の事情を考慮し，より一般性のあるものとなっていることから，本学会標準については，I A E A方式をベースに，米国原子力学会方式を参考にしながら検討していくこととした。また，国内基準のJ P D R指針（I A E A方式ベース）についても参考としていく。
- ・ I A E A方式は，世界全般を意識して詳細に書きすぎている面があり，日本の実態とは合わない面もある。日本の実態に則した標準を考える。
- ・ 上記の考え方，及び本分科会での議論を踏まえ，まず学会標準の目次の骨格を作成することとする。そのため以下の分担で，①目次タイトル ②その記載内容（数行で良い）の案を作成し，次回分科会で検討することとした。

4章 廃止措置方針（思想） 小林他

5章（責任）伊東

6章 設計・運転中の計画 村上

7章 廃止措置計画 松尾

8章（安全評価）山内

9章（計画の実行）監視 紺谷

環境評価 伊藤

Q A 谷本

運営管理 柳原

廃棄物管理 中井

- ・ また，次回分科会で，「廃炉の定義」についての議論を行うこととした。

6. 次回開催予定

第4回分科会を、3月5日，26日の週，4月2日の週で，原子力学会年会を除いた期間を対象に、アンケートにより決定することとした。

以上